

「一寸先は光」

鳥取県 龍雲寺副住職 藤川善裕
りゅううんじ ふじかわぜんゆう

私が普段勤めているお堂には、毎月の月命日に、お家に伺って供養をする慣わしがあります。あるお檀家さんのお家では、お勤めを終えて私が帰ろうとすると、ご主人がいつも心配そうな表情で、「お気をつけて帰って下さい。一寸先は闇ですから。人生、何が起こるか分かりません」と言われます。私は、ご主人がなぜ毎月このような事を言われるのか、不思議に思っていました。

しかし、時が経ち、二〇一九年十二月。新型コロナウイルスが初めて報告され、全世界が未知のウイルスの脅威にさらされました。誰が、このような事態となる事を予想できたでしょうか。まさに「一寸先は闇」となりました。

私たちは、普段「健康で平穩」な毎日を過ごせることが、当たり前だと思っただけではないでしょうか？生きていけば、時には風邪を引き寝込んでしまったり、時には不幸なことが起こったりと、思い通りにはいかないものです。

どんな方でも、御家族、また近所の方、友人の方など、たくさんの方のおかげで、その「有難い日常」があるのではないのでしょうか。感染症の予防には、マスクの着用、三密を避ける、手洗いの励行が大事とされています。それらに加え、日々「ありがたい」と思いながら過ごすことが出来たら、コロナ禍でも思わぬ光明が見つかるのかもしれない。

いつも心配して下さるお檀家さんが言われるように、確かに「一寸先は闇」かもしれませんが、見方を変えれば「一寸先は光」です。毎日感謝の気持ちを忘れず明るく希望をもち、コロナ禍を生きていきたいものです。